

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ライム			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54人	(回答者数)	54人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者意見より →「毎回違った楽しいカリキュラムで子どもも楽しく取り組んでいて成長も感じます。」 →「いつも楽しみに通所させていただいているようです。息子の『居場所』の1つとなっているライムさんに感謝です」	・毎回異なる多様なカリキュラムを企画し、子どもたちが主体的・意欲的にできるよう工夫しています。 ・子ども一人ひとりに寄り添い、安心して過ごすことができる「心の居場所」となるような雰囲気づくりを意識して支援しています。	・これからも子どもたちの興味や発達段階に応じた活動を取り入れ、可能性の幅を広げるとともに、個別のニーズに合わせた支援内容の一層の充実を目指していきます。
2	利用者意見より →「非常にマメに子どもの様子を伝えて下さり助かっています。」 →「活動中のこどもの様子を写真で送ってくださる事が特に満足している所です。」	・日々の活動の様子や子どもたちの成長の様子を、写真やメッセージを通じて丁寧に保護者へ伝えるよう努めています。 ・利用者・保護者と即時的・共感的なコミュニケーションを重ねることで、信頼される関係づくりを意識している。	・これからも利用者・保護者一人ひとりに対応した情報提供を心がけながら、子どもの小さな成長も丁寧に伝え、信頼関係をさらに深めていくことに努めていきます。
3	利用者意見より →「とても親身で親子共に安心して利用しています。」 →「先生方も愛情をもって子どもに接してくれているのがとても伝わり、安心して通所することができています。」	・子どもたち一人ひとりに寄り添い、丁寧に関わることを大切にし、温かい支援を日々心がけている。 ・利用者・保護者の方にも、スタッフが愛情をもって支援していることが伝わるよう、丁寧な対応を意識している。	・これからも職員間の連携を密にし、支援の一貫性を保ちながら、利用者と保護者双方に安心して通所していただくことのできる支援を維持・強化していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者意見より →「部屋がもっと広いといいなと思ってます」	・事業所の建物構造上、利用可能なスペースに限りがあり、活動内容によっては十分なスペース確保が難しい場合がある。	・限られたスペースを有効に活用できるよう、活動内容に応じた環境設定やレイアウトの工夫をさらに進め、子どもたちが安心して過ごすことができる空間づくりを強化していきます。
2	利用者意見より →利用者交流の機会について「特に現状そういった機会はないかもしれないが不満はない」 →「交流の機会が設けられていたらいいと思います。（同じ学年の子を持つ親や年上の子の親と進路などについて話したい）」	・法人全体で利用家庭に呼びかけ「利用者・保護者・きょうだい」参加型の運動会を実施しています。 ・保護者のニーズが多様化しており、全ての家庭にとって必要性が高いとは限らないため、交流機会を限定しながら行っている。	・昨年度実施した家族参加型運動会のような保護者と利用児童と一緒に参加できる行事を、今後も定期的に開催できるよう検討し、保護者同士の交流の機会づくりに努めていきます。
3	利用者意見より →「非常災害の発生に備えた訓練が行われているか（Q24）」の設問において、「わからない」という回答が見られました。保護者にとって避難訓練等の実施状況が十分に伝わっておらず、災害時への備えに関する安心感に欠ける点が弱みとして捉えられます。	・避難訓練は毎年3月に定期実施しているものの、その後に入所された保護者にとっては実施状況を直接見る機会がなく、「わからない」という回答につながったと考えられます。	・毎年実施している避難訓練の様子や目的について、訓練に未参加のご家庭にも伝わるよう、写真付きのおたよりやSNS等を活用して積極的に情報共有を行っています。災害時への備えを可視化することで、保護者の安心感につなげていきたいと考えています。